

ほほえみ



介護老人保健施設
アップルハイツ飯田
飯田市羽場権現 1618 (TEL21-1165)
第151号 令和6年4月1日発行



1年になりました。 施設長 大原 慎司

わたしがアップルハイツに赴任して、早や1年になりました。こちらに来て実感したのは、入所や通所で利用されている方々が、予想以上に高齢化していることです（或る日の入所者の平均年齢は88歳でした）。持病を持つ方も多く、100名の入所者様がいて、日常的に医療を必要としている方が少なくありません。



介護老人保健施設（老健）では医療保険は使えないので、施設内でできる医療は限られますが、尿路感染や上気道炎、带状疱疹などの感染症や一時的な脱水などは治療可能です。より本格的な医療が必要と判断される場合には、速やかに病院に紹介します。ただ病院への転送による環境の変化は、高齢者の皆様にはしばしば大きなストレスで、それ自体が体調を崩す原因にもなります。

アップルハイツの強みは、共通の経営母体である飯田病院との医療と介護の連携が密であることです。スタッフの研修や職員の交流も活発に行われています。

老健は、「中間施設」とも呼ばれ、病院での治療は終わったが、すぐには自宅に戻れない方の復帰を、理学療法士による専門的なりハビリテーションや介護士による日常生活訓練などを通じて支える施設です。しかし近年は高齢化が進む時代の流れでしょうか、ご自宅ではなく長期に入所可能な施設に移られる方も増えてきました。

ところで、アップルハイツの建物の中では、あちこちで利用者様同士やスタッフとの話しが弾んでいる姿がみられます。「袖触れあうも多生の縁」という言葉がありますが、それまでのさまざまな人生行路がアップルハイツで交叉して、出会いの場となっているのです。アップルハイツの建物は古い（築後30年）ですが、今後も新しい出会いの場であり続けることを願っています。

3階フロアより



3階フロアでは、季節に沿った作品作りを行っています。1月はおかめと獅子舞を作りました。おかめの顔を利用者様に書いて頂き、それぞれのお顔に違った表情が良く表れた、味のある作品となりました。3月には千代紙とお花紙でおひな様とお内裏様のちぎり絵を作りました。細かい作業でしたが、利用者様同士で声を掛け合い、作業を分担してひとつの作品が出来上がりました。

4月にはお花紙を花びらの形に折り、台紙に貼って桜の木を制作しました。完成した作品は廊下等に掲示し、「きれいだな」「あれは私が作ったんだに」など皆で楽しんでいきます。



3階利用者作品

3月 ひなまつり



3階利用者作品

4月 桜

2階フロアより

月1回程度季節の言葉を書いています



桜の花を咲かせます



表情豊かな鬼やおかめができました



俳句の会

参加者はデイケア利用者様、入所利用者様、地域の方を含め十名程度です。毎月一回投句をし、皆さんで選句をしています。先生に句を添削していただき、それぞれで勉強しています。二月の季語「日脚伸ぶ」の投句の中から三句を紹介いたします。

駅前のポスト拭く人 日脚伸ぶ 忠

日脚伸ぶかわす言葉もはずんでる かず子

窓辺から陽射し奥まで 日脚伸ぶ 十四子

ご家庭で不要になった福祉用具を寄付していただけますか。相談員までご一報ください。

☎ 0265-21-1165(代表)・21-1168(直通)